



みんつど

第十一号

編集 天地 成行

拙著「わたしは山頭火！」？ 全国各地からの感想特集

みなさん、お

正月気分でしようかね？

わたしは、年末にこれを書い

て、年始はゆつたりしてしまお

うと、気楽な気分で臨んでいます。

今号は、拙著「わたしは山頭火！」？

の感想特集であります。

二面と三面には、鹿児島市の精神疾患を
もつた方が主たる事業所の「ラグーナ出版」
編集部の方からの感想です。当事者だからわ
かる視点などお楽しみに読んでみてください。
四面は、日本福祉大学の青木聖久（あおききよ
ひさ）教授の感想もあります。原井育子さんとの
レシピもあります。どうぞ読んでみてください
ね。

それにしても、寒くなりました。これを発行
するころにはどうなっているのだろうかと危
惧します。みなさん。心も体もほっこりとあ
たたかくされてください。

こんな媒体でも毎号首が伸びるほど待つ
てくれている読者を思う度に、身が引き
締まる思いでいっぱいです。

金光光雄ファンの方もしばしあ
待ちくださいね。彼も新作をい
つか披露してくれると思います。ではスタートで
す。

村岡鍼灸治療院

山口市湯田温泉5丁目6の12

「わたしは山頭火！」？ 感想

後半の「離職」から精神障がいらしい奇行などが出でてきて、そこからの回復がよいと思いました。障がい年金をもらつてから入院したのはすごいですね。私は、いくら精神病にかかるとも、専門知識がある人は何とかなるのではないか?と思つていましたが、天地成行さんは専門知識をいかして新聞や本をつくることができてすごいですね。どう仕事へつなげるか、この本でつながっていくといいですね。作品を読んで、私は現在きつい薬を飲んでいることに気づきました。いつか主治医に薬を減らしてくれないか相談してみようと思います。精神病は人それぞれあるという現実はしようがないと思うしかないのでよね。自由律句の書き方は、詩などへも応用できるのではないかと思いました。(ウナム)

◇ 自由律俳句をやつてい
らつしやる裏側には新聞
社勤めで鍛えられた言葉
の感覚を錆びつかせない
という、そういう意味合
いもあるのではないかと
読みながら思いました。
そういうふうに書かれて
いるところもありますよ
ね。

ういう心身を持つてゐる
ということは、ひどく堪
えることです。私もそれ
を突き放し、道化性に心
を遊ばせるみたいな心境
にはなれません。そこま
で行きつけはある種の
「達人」なのでしょうが
その点からみると私は日
人だと思います。あつは
らかんと自分の身に起こつ
た体験を話せるというの
もたまたま私の体験がそ
れを許すようなものだつ
たからでしょう。

ます。それを理解するためには痛みを伴いつつ、それぞれの人が自分の人生のあれこれを開示してくれないとなかなか難しいし、また、それができるための書く力が備わっていないと難しいと思いました。

私たち、人の人生を比較的少数のリーダー的人物のサクセスストーリー やら、虚構の部分がかなりある小説によつて理解しようとしているよう気がします。もつと本心の人生を知りたいです。そして、さまざま人々の経験とか教訓とか借りて自分的人生を考えたためよですがとしたいです。(エピソビ)

※一部編集しました。

俳句をする人はボケない

俳句雑誌『山彦』（主宰 河村正浩）

〒744-0024 山口県下松市花岡大黒町526-3 (0833) 43-7531

レストハウス
たんぽぽ
TEL (0827) 436-3033
岩国市川西4の5の156

臨場感にあふれ、統合失調症の体験談として素晴らしいものに仕上がったと思います。

読んだ人に感動を与え、そして自由律俳句との出

会いも、回復にとても役立つたと思います。天地さんの「ケータイ記者ユーキ君」も読者に好評で、小説のほうでもぜひ、がんばってほしいと思います。本にでてくるエツセイもユーモアたっぷりで楽しく読めました。人生

というの、いつ終わりがくるか誰にもわかりません、だからこそ、今をだいじにして、自分が本当にやりたいことを追求してください。

わたしもいま、最初の一歩を踏み出したばかりです。四十代半ばの旅路ですが、本当にやりたかったことだからこそ頑張ります。何を始めるのも早くも遅くもない、始めよ

うと決めたときが始まりなのです。
現在私は、家族が苦しい状態で、その付き添いで仕事を休んだりして、久しぶりに出勤をしたのですが、一人で迷宮に入っていたのが、はつと、目を見まさせられました。自分の居場所があるということは、本当に恵まれた環境にいるのだと改めて感じ、仕事への意欲も戻ってきました。今後どのようなことが待ついても、今の気持ちを忘れずに、前を向いて進んでいこうと思います。(有川)

◇
通読してまず一言、驚きである。私自身も統合失調症患者だが、作者は私のくだらない人生とはスケールが違すぎる。大体、精神病に28歳で罹患してからも、10年勤め続けていたというの

ラグナ出版編集部感想続

は、非常にすごいことです。

久しぶりに出勤をしたの

ですが、一人で迷宮に入っていたのが、はつと、目を見まさせられました。自分の居場所があるとい

うこと、本当に恵まれた環境にいるのだと改め

て感じ、仕事への意欲も戻ってきました。今後どのようなことが待ついても、今の気持ちを忘れずに、前を向いて進んでいこうと思います。

また作者は新聞記者だった経験を活かして、新聞

「みんつど」を発行して創刊号から現在に至るま

なに決めたときが始まりなのです。

オジナリティー溢れる記事や短編小説に思わず

うならせられた。

また弊社の発行している雑誌「シナプスの笑い」には現在、「ケータイ記者ユーキ君」が連載され

ている。これもまた小学5年生の山田ユーキ君が、父親が編集長を務める家族新聞に、子ども記者として記事を書くという斬新なストーリーで、校正しながら楽しく読ませていただいている。大変ありがたいことである。

MC 大橋広宣 雅子

周南地域のケーブルテレビで放映中の福祉番組

こころてれび

コロナウイルスと闘う
医療関係者の皆様へ
心より感謝申し上げます

株式会社
出エプロン
制作版

〒742-0417
岩国市周東町下久原221-1
TEL0827(81)1551
<https://crouton.co.jp>

周南の地域で支える「心の悩み」

ひだまりの会

代表(松田茂) 0834(26)0533

「わたしは山頭火！？」

青木聖久・日本福祉大学教授の感想

何と言いましょうか。
天地さんは、ヒューマニズム溢れる方であり、感性に富む文章が満載ですね。

さすがに、文章がお上手ですので、本当に読みやすかったです。私自身、本の編集に携わることも少なくあります

ん。その際、一文が長すぎたり、主語と述語のかかりが不明確だつたりしている等、研究者の文章でも読みづらいうのが多いです。そのようななか、天地さんの文章は、すっと読めたので素晴らしいです。実際、大学院生の論文指導でも、文章指導が半分強です。

では、以下、順不同での感想です。

○安溪先生もコメントされており、天地さんの文章は、体験談や主観の文章の後に、その根拠をしめしていること

で説得力があります。ある意味、新書等は、